2025年度
事業計画

2025年4月 1日から
2026年3月31日まで

公益財団法人　日本水泳連盟

2025年3月作成

目　　次

所信 …… 2
国際競技大会参加予定一覧 …… 4
事業の方針
Ⅰ　競技力向上事業（選手派遣事業）…… 5
1. JOC 派遣事業
2. 本連盟派遣事業（主要大会）
Ⅱ　競技力向上事業（選手強化事業）…… 5
1. 競泳強化事業
2. 飛込強化事業
3. 水球強化事業
4. アーティスティックスイミング強化事業
5. オープンウォータースイミング強化事業
6. 科学事業
7. 医事事業
8. アンチ・ドーピング事業
Ⅲ　競技運営推進事業（競技大会開催事業）…… 13
1. 国内競技会開催事業
2. 国際競技会の開催事業
3. 競技委員会事業
4. 国際関係事業
Ⅳ　競技運営推進事業（競技条件整備事業）…… 16
1. 競技者登録事業
2. 競技規則制定事業
3. 競技役員養成・登録事業
4. 競技記録公認・管理事業
5. 施設用具公認推薦事業
Ⅴ　普及事業 …… 17
1. 指導者養成事業
(1) 地域指導者養成事業
(2) 競技力向上コーチ養成事業
(3) 水泳教師養成事業
2. 生涯スポーツ・環境事業
3. オープンウォータースイミング普及事業
4. 日本泳法保存事業
5. 機関誌発行事業
6. 広報事業
7. アスリート委員会事業
8. 国際貢献事業
Ⅵ　組織運営のための共通事業 …… 21
1. 総務関係事業
2. マーケティング事業
3. 特別委員会事業
Ⅶ　組織運営および財政基盤の確立 …… 22

所　信

2024年度、パリオリンピック・パラリンピック競技大会にて獲得した銀メダル２つは、競泳の松下知之選手（18歳）、飛込の玉井陸斗選手（17歳）と若手選手の台頭があり、2028年に開催されるロサンゼルスオリンピック・パラリンピックに向けて希望の持てる成果となりました。20年来メダル常勝種目であった競泳、アーティスティックスイミング（AS）が苦戦した一方で、飛込が約100年越しで初のメダルを獲得し、強豪中国の牙城を崩す勢いとなりました。水球は決勝リーグにこそ届かなかったものの強豪国に劣らぬ試合内容が多く、世界で戦うチームとしての顕著な実力向上が見られました。そして、セーヌ川で開催されたオープンウォータースイミング（OWS）も、女子10kmでは序盤から上位をキープし、ラスト60mのコース取りにより惜しくも入賞は逃したものの、入賞の可能性を大きく躍進させたレースとなりました。この結果を受け、各種別の強化事業が着実に成果を結んでいる一面は評価したいと考えております。ご支援ご協力をいただいた協賛・スポンサー各社、加盟団体、関係団体の皆さまに対し、心より感謝と御礼を申し上げます。

また、昨年は本連盟創立100周年を迎え、「水泳ニッポン・中期計画2017－2024」の集大成の年となりました。戦争の長期化による世界経済への影響や猛威を振るった新型コロナウイルス感染症による情勢悪化、急激な少子高齢化等の影響を受けて以降、計画のすべてを遂行することが困難になりましたが、新時代を迎えるために取り組むべき活動と目標を整理し、2012年に発表した「ドリームプロジェクト2020」での取り組みを継承しつつ、新しい水泳の価値を生み出せるよう「水泳ニッポン・新時代構想」の策定を発表しました。今後の100年に向けたアクションプランとビジョンを掲げることで「AQUA CREW」と水泳の目指すべき未来を共有し、日本の水泳界のあるべき姿を達成していきたいと考えます。

選手派遣・選手強化事業では、ロサンゼルスオリンピックを最重点大会と位置づけ、金メダルを含む複数のメダル獲得を目指します。加えて主要な国際大会に参加しての実戦強化による全種目・全カテゴリ代表が国際大会で最高成績を更新する、いわゆる「競技会強化」による競技力向上に取り組みます。また、次世代の選手強化にも積極的に取り組み、より高いレベルで戦える選手の早期育成、選手層の拡充を図ります。

競技運営推進事業では、世界選手権大会（福岡）において証明した国際基準の質の高い大会運営を継続していくとともに、国内競技会において主管団体と連携して、全国で統一した高いレベルの競技会を実現します。

指導者養成事業では、指導者養成３委員会による協議・協働を継続し、スポーツ文化の創造およびスポーツの社会的価値向上に貢献できる指導者の養成、ならびに減少傾向にある指導者資格保有者数の維持・増加に取り組みます。また、加速する学校体育における水泳授業の民間委託や学校部活動の地域連携および地域スポーツクラブ活動への移行に関連し、指導力の向上と平準化を掲げ、そのための資格取得必須化を目指して施策を講じます。

生涯スポーツ・環境事業では、老若男女を問わず「泳力検定（飛込検定・ASバッジテスト・OWS検定含む）」および「水泳の日」、「スイムスマイルプロジェクト」などを通じて、水泳の楽しさを伝えるとともに、青少年の健全な成長支援と高齢化社会におけるウェルネススポーツとしてのイニシアティブ獲得、ウェルビーイング活動を推進します。また、「命を守ることができるスポーツ」水泳の教育環境を継続して整備し、国民皆泳や水難事故防止啓発活動の全国展開を図ってまいります。

総務関係事業では、新たに策定した「水泳ニッポン・新時代構想」の進捗管理を行うとともに、「スポーツ団体ガバナンスコード＜中央競技団体向け＞」に適応した組織運営を継続し、ガバナンスの強化およびコンプライアンスの徹底、スポーツ・インテグリティ（誠実性・健全性）の向上に取り組みます。また、人材の育成と適正配置により自主財源の確立およびマーケティング、PR活動についても注力します。

広報事業では、水泳競技への注目度を一層高めるとともに、水泳ファン・水泳愛好者へのリーチを意識した各種情報発信に努めるべく広報戦略を見直し、デジタルプラットフォームの拡充により「AQUA CREW」の拡大を目指します。

競技条件整備事業では、競技者登録管理システム「WebSWMSYS」、競技会記録速報ツール「超速」の安定運用および機能拡充を推進します。

これら組織基盤の強化を図りつつ、世界水泳連盟（AQUA）、スポーツ庁、（公財）日本スポーツ協会（JSPO）、（公財）日本オリンピック委員会（JOC）などの関係機関・団体とも連携強化・協働を図ります。また、水と共生できる社会の実現を目指して、世界共通の大切な資源である水を利用するスポーツのチカラで、持続可能な社会実現の水先を先導していき、水泳競技の永続的な発展と競技団体としての価値向上を目指します。

結びになりますが、創立100周年を迎え、新たなステージへの挑戦と日本水泳界の未来に向けて、各加盟団体と情報共有および意思疎通を密に図り、水泳界が一丸となった「オールジャパン体制」をより強固なものにしてまいります。皆さまのなお一層のご支援ご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

2025年3月16日
会長　　鈴木 大地

国際競技大会参加予定一覧　　（注）◎印は主要競技大会

種目	競　技　会	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
競泳	オリンピック大会				◎
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会		◎		
	ワールドユニバーシティゲームズ	◎		◎	
	パンパシフィック選手権大会		◎		○
	アジア選手権大会				○
	世界選手権大会（25m）		○		○
	AQUAワールドカップ	○	○	○	○
	ユースオリンピック大会		○		
	世界ジュニア選手権大会	○		○	
	ジュニアパンパシフィック選手権大会		○		○
	アジアエージ選手権大会	○		○	
飛込	オリンピック大会				◎
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会		◎		
	ワールドユニバーシティゲームズ	◎		◎	
	AQUAワールドカップ	○	○	○	○
	アジア選手権大会				○
	ユースオリンピック大会		○		
	アジアエージ選手権大会	○		○	
	世界ジュニア選手権大会		○		○
水球	オリンピック大会				◎
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会		◎		
	ワールドユニバーシティゲームズ	◎		◎	
	アジア選手権大会				○
	AQUAワールドカップ	○	○	○	○
	世界ジュニア選手権大会（U20）	○		○	
	世界ユース選手権大会（U18）		○		
	世界カデット選手権大会（U16）		○		
	アジアエージ選手権大会（U17）	○		○	
アーティスティック（AS）	オリンピック大会				◎
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会		◎		
	アジア選手権大会				○
	AQUAワールドカップ	○	○	○	○
	世界ジュニア選手権大会		○		
	世界ユース選手権大会	○		○	
	アジアエージ選手権大会	○		○	
オープンウォーター（OWS）	オリンピック大会				◎
	世界選手権大会	◎		◎	
	アジア大会		◎		
	パンパシフィック選手権大会		◎		
	アジア選手権大会				○
	AQUAワールドカップ	○	○	○	○
	世界ジュニア選手権大会		○		

事業の方針

Ⅰ　競技力向上事業（選手派遣事業）

選手派遣事業は、本連盟の財源はもとより国の補助金や助成金などの公的資金を活用することから、費用対効果を含めた評価および報告の義務が課せられる。パリオリンピック期が終了し、ロサンゼルスオリンピック期へ移行することとなる。オリンピックで活躍する選手をはじめ、次世代強化に向けた競技力向上のため、各派遣の目標達成に向けた計画や準備など、派遣事業がより効果的に実施されるよう取り組む。そして情報開示をきちんと実施し長期的な強化のプランを共有して日本全体として強くあり続けることを目指したい。

１．JOC 派遣事業

（１）ワールドユニバーシティゲームズ

①	期間・場所	7月16日～ 7月27日	ドイツ：ライン・ルール、ベルリン
②	競技種目・日程		
⒜	競泳	7月17日～ 7月23日	ベルリン
⒝	飛込	7月17日～ 7月23日	ベルリン
⒞	水球	7月17日～ 7月26日	ディスブルク

２．本連盟派遣事業（主要大会）

（１）世界選手権大会

①	期間・場所	7月11日～ 8月 3日	シンガポール・カラン
②	競技種目・日程		
⒜	競泳	7月27日～ 8月 3日	
⒝	飛込	7月26日～ 8月 3日	
⒞	水球	7月11日～ 7月24日	
⒟	AS	7月18日～ 7月25日	
⒠	OWS	7月15日～ 7月20日	シンガポール・セントーサ
⒡	ハイダイビング	7月25日～ 7月27日	

（２）AQUA ワールドカップ

①	期間・場所	未定
②	競技種目・日程	未定

Ⅱ　競技力向上事業（選手強化事業）

2025年度は、コロナ禍をへて、ようやく通常の４年周期でのオリンピック強化を行う初年度となる。月１回の特別強化本部会議を通じて５部門の進捗状況を常に確認するとともに、国際情勢の把握、新ルールへの適応も着実に行い効果的な選手強化事業を実施していく。選手強化事業としての最大の目標はロサンゼルスオリンピックでの選手の活躍であるが、2032年ブリスベンオリンピックを見据えて各種目世代交代を行いながら、ジュニア世代の強化も確実に行うため、長期強化プランに基軸をおいて効果的な施策を実施していく。

１．競泳強化事業

2024年度上期は、パリオリンピックが開催され、競泳はメダル獲得が銀メダル１個、入賞は個人10種目（９人）・リレー３種目。競泳チームの目標であった①金メダルを含む複数メダルの獲得、②全員決勝進出、③本戦で五輪選考会の記録を超えるという３つの目標は１つも達成できておらず、非常に厳しい結果であった。一方で成果は、メダルを獲得した選手が初代表の若きスイマーであり、ジュニア遠征から紐付き成長した選手であったこと、また３人の高校生スイマーがすべて入賞を果たし、決勝の舞台を経験してくれたこと、そしてベテラン選手の中にも選考会からタイムを伸ばし、数年ぶりに好タイムを出した選手がいたことである。今後はロサンゼルスオリンピックに向けて、この若きスイマーと中堅・ベテラン選手とが融合して、より高い競技力を身につけた選手たちのチームを作ることが肝要である。

ジュニアパンパシフィック選手権大会には27名の選手を派遣し、金メダル６個・銀メダル５個・銅メダル10個を獲得し、国別メダル数はアメリカに次ぐ２位という結果で、強豪諸外国との情報交換も行えたことは収穫といえる。

下期については世界選手権大会(25m)大会（ブダペスト）が行われ、10月の日本選手権水泳競技大会(25m)大会で選考した19名の選手団で臨み、銅メダル１個を獲得した。また、４×50m 混合メドレーリレーでは、約１年２か月ぶりに競泳での短水路日本新記録更新（同記録は短水路アジア新記録）を成し遂げた。

2025年は、世界選手権大会（シンガポール）、ワールドユニバーシティゲームズ（ドイツ）、世界ジュニア選手権大会（ルーマニア）が開催される。世界選手権大会（シンガポール）では、複数メダリストの輩出とパリオリンピックでの入賞数を上回る入賞数14以上を目指し、選手、スタッフすべてが同じ方向を向き「戦うチーム」を編成し目標を達成していく所存である。

（１） 国際競技会

①	ヨーロッパグランプリ	5月	スペイン、フランス
②	世界選手権大会	7月27日～8月3日	シンガポール
③	ワールドユニバーシティゲームズ	7月17日～7月23日	ドイツ・ベルリン
④	世界ジュニア選手権大会	8月19日～8月24日	ルーマニア・オトペニ
⑤	AQUA ワールドカップ	未定	未定
⑥	全国11ブロック代表海外派遣	3月	シンガポール

（２）強化トレーニング合宿

①	ワールドユニバーシティゲームズ国内合宿①	4月	国立スポーツ科学センター(JISS)
②	世界選手権大会国内合宿①	4月～5月	ナショナルトレーニングセンター・イースト(NTC-E)
③	世界選手権大会国内合宿②・強化試合	6月	東京アクアティクスセンター(TAC)
④	ワールドユニバーシティゲームズ国内合宿②・強化試合	6月～7月	TAC
⑤	世界選手権大会海外高地合宿	6月～7月	スペイン・シエラネバダ
⑥	ワールドユニバーシティゲームズ直前合宿	7月	JISS
⑦	世界選手権大会直前合宿	7月	NTC-E
⑧	世界ジュニア選手権大会事前合宿	7月～8月	JISS
⑨	世界ジュニア選手権大会直前合宿	8月	NTC-E
⑩	秋季エリート小学生合宿	9月	JISS
⑪	日本代表候補合宿	10月	JISS/NTC-E
⑫	インターナショナル合宿①	11月	NTC-E
⑬	自由形リレー強化合宿	11月	JISS
⑭	インターナショナル高地合宿	12月	GMO アスリーツパーク湯の丸
⑮	インターナショナル合宿②	12月	NTC-E
⑯	ナショナル合宿	12月	富士水泳場/スポーツの杜鈴鹿

⑰	全国11ブロック合宿	12月	全国各地
⑱	アジア大会・パンパシフィック選手権大会一次合宿	3月	NTC-E
⑲	五輪候補個別合宿(海外)	未定	各地

（3）コーチ派遣・招聘

①	ロサンゼルスオリンピック事前合宿候補地視察	未定	未定
②	LEN U23 European Championships 視察	未定	未定
③	全米選手権大会視察	7月	アメリカ
④	ASCA コーチクリニック参加	9月	アメリカ
⑤	インターナショナル合宿海外コーチ・選手招聘	11月	JISS/NTC-E

（4）企画・研修および講習会

①	春季エリート小学生オンライン研修会	4月	オンライン
②	マスタープラン会議	8月/9月	JSOC
③	強化コーチ会議(春季)	4月	オンライン
④	強化コーチ会議(秋季)・強化コーチクリニック	10月	HPSC/オンライン
⑤	インターナショナルオンライン研修会	10月	オンライン

２．飛込強化事業

2024年に開催されたパリオリンピックでは個人４種目にエントリーし、選手５名スタッフ３名の選手団を派遣した。結果２種目で決勝進出を果たし、男子高飛込に出場した玉井陸斗選手は銀メダルを獲得した。日本飛込界が104年間切望し続けたオリンピックの初メダル獲得の快挙であり、個人種目やシンクロ種目において強化を進めてきたが、メダルにあと一歩届かない現状であった中、ようやく結果を残すことができた。その要因として過緊張の国際競技会の状況でも十分な力を発揮できる高い経験値が挙げられる。今後はロサンゼルスオリンピックを見据えて、いかにメダル獲得を継続して実現することを課題とし、引き続き「国際競技会強化」、「重点強化」、「拠点強化」の３視点で強化事業を継続展開していく。

「国際競技会強化」として AQUA ワールドカップ大会を重要視する。この競技会は、世界選手権大会・オリンピックの国際主要大会に加え、各地で行われている AQUA 公認の大会の実績を元に高いレベルの選手が集まる大会である。この大会の予選に当たるカナダ・アメリカ・マレーシアなどの地方大会に個人やシンクロチームを派遣し国際競技力向上に努めたい。さらに多くの選手に機会を与えるためにナショナル選手の自費による参加も認めることとした。この方針はロサンゼルスオリンピックの基盤となるチームづくりを目的としている。一方、ジュニア選手の台頭も課題となっている。ジュニアナショナル選手の国際競技力向上のため、選抜された若手選手をオーストラリアジュニア国際大会に派遣し、経験値の向上を図り、アジアエージ選手権大会（開催時期・場所未定）での上位入賞を目標とする。この国際２大会により技術力・精神力に長けた勝負強い選手の早期育成を図りたい。

「重点強化」としてはメダルアスリート事業（MA）を策定した。この事業は日本飛込界全体で応援する体制づくりを基盤に長期的な重点強化を推進し、パリオリンピックのメダリストである玉井陸斗選手を継続重点強化するものであり、シンガポール・ロサンゼルスでの強化合宿を計画している。

そして最後に「拠点強化」としては、所属での強化を含め継続した国内合宿を滞りなく実現するため、練習施設の整備が必要不可欠である。石川県や三重県、静岡県の公共プール施設では行政の協力を得ている。そして、JOC 競技別強化拠点事業である栃木県宇都宮市の日環アリーナ栃木には競技に特化した室内練習施設が充実しており、効率の良い練習が通年で実現できている。さらに2024

年に開設された滋賀県インフロニア草津アクアティックセンターも西日本の拠点としてトップレベルの選手から初心者まで効果的な強化普及活動を展開し、全国での強化拠点が整いつつある。

（1） 国際競技会

①	世界選手権大会	7月26日～8月3日	シンガポール
②	ワールドユニバーシティーゲームス	7月17日～23日	ドイツ・ベルリン
③	AQUA 2025 ワールドカップ	4月10日～13日	カナダ・TBC
④	AQUA 2025ワールドカップ Super Final	5月 2日～ 4日	中国・北京
⑤	AQUA カナダ カップ	5月 5日～ 8日	カナダ・TBC
⑥	AQUA アメリカ カップ	5月12日～15日	アメリカ・モーガンタウン
⑦	アジアエージ選手権大会	未定	
⑧	NSW ジュニアチャンピオンシップ大会	未定	オーストラリア・シドニー
⑨	AQUA Malaysia Open Diving	未定	マレーシア・クアラルンプール
⑩	AQUA 2026 ワールドカップ第1戦	未定	

（2）強化トレーニング

①	強化国内合宿		
	⒜ シンガポール世界選手権強化合宿	6月	日環アリーナ栃木
	ユニバーシティゲームズ強化合宿	6月	日環アリーナ栃木
	⒝ 国内強化合宿（3回）	12月～3月	日環アリーナ栃木
②	ジュニア合宿		
	⒜ アジアエージ強化合宿	未定	日環アリーナ栃木
	⒝ ジュニア強化合宿	12月	日環アリーナ栃木

（3）企画・研修会および講習会

①	強化コーチ会議	10月他	多数回
②	ブロック代表者会議	12月	
③	公認審判員研修会		
	⒜ A・B 級公認審判員中央研修会	5月～7月	数回
	⒝ C 級公認審判員研修会	中央研修会後	随時
	⒞ 巡回教室	未定	
	⒟ 指導者育成研修	未定	

３．水球強化事業

2024年、パリオリンピックでは、悲願の決勝トーナメント進出を目指したが、予選リーグで優勝候補のセルビアをあと一歩まで追い込んだものの、目標達成には至らなかった。水球委員会で今後の強化体制について協議し、ロサンゼルスオリンピックへ向けて男子監督を塩田義法（留任）、女子監督を筈井翔太（新任）の体制で再スタートを切った。両監督とは、①毎年チェックポイントは設定するものの、基本路線をロサンゼルスオリンピックを重視した強化計画のもと実行する、②年代別の指導体制についても権限を持つ、という点を確認した。

2025年、世界選手権大会（シンガポール）では、男子８位以内、女子は過去最高の９位を目指し、2026年アジア大会男女優勝に繋げる。ワールドユニバーシティゲームズは、世界選手権大会と期間が重なり、完全に別チームを構成することとなり、将来の日本代表を担う可能性がある大学生にチャンスが生まれる。助成金も縮小となり、本連盟の財務状況も厳しい中、限られた予算内での AQUA 主要大会派遣を優先とし、年代別の AQUA 大会派遣は断念する。また、海外、国内代表合宿等も調整が必要であり、引き続き所属チームの理解・協力を得て強化を継続する。多くの代表選手が活動する海外拠点へ両監督が出向いて視察を行い、またリモート等も活用し、コミュニケーションを図る工夫をしていく。

他方で水球競技全体の大きな課題（①スタッフの処遇面確保、②収入拡大や広報戦略に向けた戦略実行の体制強化、③競技別強化拠点の確保、④強化に資する国内競技会の検討と見直し、⑤アクアゲームを活用した水球ファン層の拡大等）の計画・実行も推進していく。選手ならびに水球に係わる関係者と一丸となって、改革に協力して取り組めるよう、関係者へのアプローチを継続してく。

（1）チーム派遣

①	AQUA ワールドカップ Final（男子）	4月11日～4月13日	モンテネグロ・ポドゴリツァ
②	AQUA ワールドカップ Final（女子）	4月未定	未定（中国）
③	世界選手権大会（男女）	7月11日～7月24日	シンガポール
④	ワールドユニバーシティゲームズ（男女）	7月16日～7月27日	ドイツ・デュイスブルク
⑤	AQUA ワールドカップ Division1（男子）	未定	未定
⑥	AQUA ワールドカップ Division2（女子）	未定	未定

（2）強化トレーニング合宿

①	世界選手権直前海外合宿（男子）	7月予定	シンガポール他
②	国内通い合宿（男女）	関東学生リーグ開催期	首都圏
③	第1次～第3次国内強化合宿（男子）	6月、7月、2月／1週間程	未定
④	第1次～第3次国内強化合宿（女子）	6月、7月、2月／1週間程	未定

（3）企画・研修会および講習会

①	地方クリニック（女子）	年2回程度時期未定	未定
②	U16・U17研修合宿	12月・3月	倉敷・柏崎
③	国外視察	6月、12月、3月／1~2週間程	未定
④	国内視察	通年	IH/国スポ 他
⑤	科学情報収集	通年	JISS 他

４．アーティスティックスイミング強化事業

2024年度は、パリオリンピックでのメダル獲得を最優先に取り組んできた。チーム種目はアクロバティックルーティンが追加された３種目での総合結果となり、チームは中国が金、アメリカが銀、スペインが銅メダルを獲得し、日本は５位と厳しい結果となった。アクロバティックによる怪我のリスクもさらに増え、新ルールで８名のみで３種目を泳ぎ切る厳しさを痛感した。デュエットは中国が金、イギリスが銀・オランダが銅とメダルを獲得し、日本は、脚技の実施が認められずに８位と大きく順位を落としてしまった。デュエットのみに徹して強化をしてきたイギリス・オランダは初のメダルを獲得し、順位の予測もできない競技へ大きく変化した。直後に行われた世界ジュニア選手権大会では、金メダル１つ、銀メダル２つ、銅メダル１つを獲得し次世代が育っていることをアピールできたことは良かった。AQUA では、2025年１月にもルールは大きく更新されることがすでに発表されている。引き続きアクロバティック強化は必須であり、怪我のリスクを減らすためにも、選手のフィジカル強化を重点に強化を図っていく。

2025年度は、７月のシンガポールでの世界選手権大会が最大の目標となる。パリオリンピックから４名の選手が継続し、ジュニア代表世代も加わり新しいチーム体制となった。AQUA ワールドカップに参戦し、経験を重ね、最新情報を取り入れながらアクロバティック強化に重点をおき、世界選手権大会に挑む。また、ユース世代を世界ユース選手権大会（８月、ギリシャ・アテネ）に派遣し、表彰台を狙う。AQUA が重点強化のひとつとして掲げているミックスデュエットの普及と男子選手の拡充対策を継続して行う。ユースエリート強化合宿も継続し、2028年以降の中心戦力選手を着実に育てていく。AQUA ルールの国内運用に伴い、テクニカルコントローラーおよび審判員の養成講習会と研修会、さらに競技運営研修会も継続的に行う。

（1） 国際競技会

①	AQUA ASWC 2025 エジプト大会	4月11日～ 4月13日	エジプト・フルガダ
②	AQUA ASWC 2025 カナダ大会	5月 1日～ 5月 3日	カナダ・マーカム
③	AQUA ASWC 2025 スーパーファイナル	6月13日～ 6月15日	中国・西安
④	世界選手権大会	7月18日～ 7月25日	シンガポール
⑤	世界ユース選手権大会	8月26日～ 8月30日	ギリシャ・アテネ

（2）強化トレーニング合宿

①	世界選手権大会強化合宿	4～7月	JISS
②	世界ユース選手権大会代表合宿	5～8月	JISS
③	AQUA ASWC 大会代表合宿	10～3月	JISS ほか
④	2028・2032五輪対策アクロバティック強化合宿	10～2月	NTC
⑤	ユース有望選手特別強化合宿	9月	JISS
⑥	ユースエリート育成特別強化合宿	10～12月	JISS
⑦	男子ジュニア強化合宿	12月	JISS

（3）企画・研修会および講習会

①	代表派遣選手選考会	10～12月	HPSC
②	全国強化担当者会議	10～12月	JISS
③	コーチキャンプ	10～12月	HPSC
④	ナショナルコーチ・国際審判員合同会議	秋	JISS
⑤	テクニカルコントローラー強化研修	年間	東京・大阪・加盟団体
⑥	テクニカルコントローラー研修会・派遣	年間	競技会開催地ほか
⑦	審判強化研修	年間	東京・大阪・加盟団体
⑧	審判研修会、レフリー派遣	年間	競技会開催地ほか
⑨	競技者育成プログラムバッジテスト	年間	東京・大阪・加盟団体
⑩	男子選手講習会	4月・10月	東京・大阪

5．オープンウォータースイミング強化事業

オープンウォータースイミングは競泳1500m・800m 自由形のタイムと共に、環境適応力も必要であり、両者を強化する必要がある。

2024年度は、パリオリンピック前に開催された AQUA ワールドカップにおいて、女子のオリンピック選手が８位入賞を果たすことができ、OWS にとって、久しぶりの国際大会における個人での入賞を果たすことができた。その後も2024年11月に行われた AQUA ワールドカップにおいて上記選手とは別の女子選手が入賞を果たすことができた。さらに、９月に行われた世界ジュニア選手権ではノックアウトスプリントという新種目において、日本人が初代世界チャンピオンとなった。いずれの選手も競泳インターナショナル標準記録を突破しており、世界で戦うためには競泳のある一定のタイムが必要であることが明らかとなった。

これらから、2025年度は、1500m の泳力レベルをあげる強化を引き続き行うと共に、OWS の環境適応力を強化できる海外でのレース経験を積ませることをターゲットとして強化事業を実施する。加えて、ジュニアの活躍をシニアでの活躍に繋げるために、これまでに実施していなかった LEN CUP へのジュニア選手の派遣を開始する。OWS のトップ選手は多くがヨーロッパ選手であることから、LEN CUP への派遣は適切であると考える。さらに、オリンピックでメダルを獲得する選手は大学卒業後の選手が多いことから、大学生をターゲットとした大学生合宿もスタートさせ、段階的な強化を実施していく。

2025年度の主要大会である世界選手権大会に向けては、シンガポールで開催され、高水温が想定されることから、暑熱順化合宿を導入する。2023年の時も世界選手権大会（福岡）に向け暑熱順化合宿を導入し、そこでノウハウを得られたことから、それらを活かしながら、今回は沖縄・石垣島での高水温下での合宿を実施したいと考える。

また、国際大会で上位入賞を複数人果たしていることから、海外コーチから合同合宿などの申し出も増えてきた。これらから、OWS トップコーチの１人である海外のコーチには、オンラインで講習会をしていただき、パフォーマンス構造やトレーニングの方法、またその評価方法について学ぶ機会を複数回行う予定となっている。

このように、日本人選手が国際大会入賞を果たすようになった勢いを活かして、2025年度はさらに国際競技力を向上できるよう、海外選手やコーチとの交流も増やしながら、強化事業を実施していく。

（1） 国際競技会

①	AQUA ワールドカップ	4月25日～4月26日	スペイン・イビザ
②	AQUA ワールドカップ	6月14日～6月15日	ポルトガル・セチュバル
③	世界選手権大会	7月15日～7月20日	シンガポール・セントーサ
④	LEN CUP	7月26日	フランス・パリ
⑤	全豪選手権	1月	オーストラリア・未定

（2）強化トレーニング合宿

①	世界選手権代表サポート合宿	5～6月	JISS
②	世界選手権代表サポート暑熱順化合宿	6～7月	沖縄・石垣島
③	世界選手権代表合宿	7月	JISS
④	ナショナルチーム合宿	12月	長野・東御
⑤	大学生合宿	2月	JISS
⑥	全豪選手権代表合宿	1月	JISS

（3）企画・研修会および講習会

①	強化コーチ会議	毎月	オンライン
②	海外コーチ招聘	4,5月	オンライン など

６．科学事業

本連盟関係諸委員会、加盟団体、関連組織との連携を強化し、国内外の競技会における競技力向上に資する科学支援事業を展開する。競泳選手・コーチへのレース分析データの提供効率を上げ、映像データ（水上）の提供を日本選手権水泳競技大会などで継続実施する。飛込、水球、AS、OWS における日本選手権水泳競技大会などを対象に、科学サポートを継続・発展させる。合宿における科学サポートでは、選手自身が主体的に競技力向上に向けて科学的な見地から考察できる取り組みを行う。教育・啓発活動として、日本水泳・水中運動学会の準備・開催に協力する。広報委員会と連携し、事業報告、科学サポート報告、学会が発信する最新の科学知見について、月刊水泳などを通じて広く周知する。

（1）競泳の科学サポート

① 競泳の主要競技会（日本選手権水泳競技大会、国民スポーツ大会などの全国大会）におけるレース映像の撮影・分析、競泳委員会と連携した科学サポートの実施

② データ利用の促進（競泳委員会との連携によるデータベース構築、情報システム委員会との連携によるデータ管理の適正化）

（2）飛込、水球、AS、OWS の科学サポート

各競技会（日本選手権水泳競技大会、国民スポーツ大会などの全国大会）における競技映像の撮影・分析、各委員会と連携した科学サポートの実施

（3）主要合宿における科学サポート推進

① ジュニア選手を対象とした競泳エリート小学生研修合宿、ナショナル合宿などのサポート
② 飛込、水球、AS、OWS の主要合宿科学サポート

（4）教育・啓発・普及活動

① 日本水泳・水中運動学会年次大会（10月初旬、中京大学）の準備・実施への協力
②「水泳の日」（パーソルアクアパーク宮崎）における水中撮影・映像提供（対象：一般スイマー）

７．医事事業

2025年度は本連盟関係諸委員会、ハイパフォーマンススポーツセンター（HPSC）、JOC、公益財団法人日本アンチ・ドーピング委員会（JADA）らと連携しながら、競技力向上を目的としたメディカルサポート活動、競技会における救護活動ならびに水泳競技をより安全に普及するための調査・研究・広報活動を行う。

2023年７月に改訂された World Aquatics Competition Regulations において、脳振盪に関する事項が追加され、医事委員会内のワーキンググループを中心に周知活動を行ってなっているが、2024年度には競技力の低下や引退につながる事例が発生している。よって、競技者だけではなく、指導者、審判、保護者などすべての関係者に対して教育・情報提供活動を継続的に実施する。

アスリート委員会とともに Women’s Health Project for Japanese Swimmers (WHP)を運用し、地域指導者委員会の協力を得て各加盟団体での講習会を継続することで女性アスリートの健康問題の解決に寄与することを目指す。

全国各地に潜在する有望選手に対しても適切な医学的サポートが行われるように、競泳委員会と協同して各地域ブロックにおけるメディカルサポート活動を行う。

教育、啓発活動として日本水泳ドクター会議、日本水泳トレーナー会議への協力を通して、水泳文化の普及・発展に寄与する。

（1）主要競技大会における医事運営

① 救護担当ドクターの派遣
② 救護用医薬品の管理

（2）競技選手へのメディカルサポート活動

① 選手のコンディショニングおよび外傷・障害・疾病の管理
② アンチ・ドーピング活動
③ 強化指定選手・ジュニア選手のメディカルチェック・障害予防対策実践
④ 強化指定選手・ジュニア選手の医事相談活動および調査研究活動
⑤ メディカルサポートミーティングでの情報共有および連携強化
⑥ 国際大会・合宿などへの帯同ドクター・トレーナー派遣

⑦ 国際大会、海外合宿時の医薬品管理

（３）教育・啓発・研究活動

① World Aquatics Sports Medical Committieeとの協力
② 日本水泳ドクター会議・日本水泳トレーナー会議との連携・協力
③ 障害予防のための研究、予防対策の開発・普及
④ 指導者養成講習会への講師派遣
⑤ 脳震盪ワーキンググループによる教育・情報提供活動
⑥ WHPによる女性アスリート支援

８．アンチ・ドーピング事業

（１）連盟主催競技会でのドーピング検査事業

国際的なアンチ・ドーピング活動の一環として、JADAと連携し、連盟主催大会かつJADAが指定する「国内最高レベルの競技大会」においてドーピング検査（競技会検査）を実施する。また、該当競技会の監督者会議ではアンチ・ドーピングに関する啓発をする。NF代表役員（主に医事委員会もしくはアンチ・ドーピング委員会の委員）を該当競技会のドーピング検査会場に配置し、ドーピング検査が円滑に実施できるように手配するとともに、検査が適正に行われていることを選手目線でも確認する。

（２）その他の事業

① 競技会における配布資料やホームページ掲載資料などの作成、禁止物質・禁止方法の治療使用特例（TUE）申請書類の事前審査
② 強化合宿・研修会（オンライン含む）などでのアンチ・ドーピング講習会講師派遣
③ 本連盟主催のアンチ・ドーピング講習を行う講師資格であるJADA承認クリーンスポーツEducatorの育成・管理
④ 競技会会場でのアンチ・ドーピング啓発活動へのスポーツファーマシスト派遣（アウトリーチプログラムの実施）
⑤ JADA会議・研修会（オンライン含む）へのNF代表役員の参加
⑥ ホームページ上での医薬品使用に関する「薬の相談窓口」対応

Ⅲ　競技運営推進事業（競技大会開催事業）

日本水泳連盟創立100周年を迎えて示された新たなアクションプランを踏まえて、更なる競技大会の充実に向けて全国の加盟団体と連携して取り組む。「する」・選手が最高のパフォーマンスができる環境づくりを最優先に、「観る」・魅力ある競技会を行うことで、水泳ファンを拡大し、会場に来てくれる子供たちを含めた観客を増やすために「支える」・関係者、競技役員が一丸となってAQUA CREWとして高いレベルの競技大会を作り上げる。競泳・飛込・水球・AS・OWSそれぞれが総力を挙げて、全ての競技大会を計画に沿って実施する。

１．国内競技会開催事業

国内で行われる各大会の開催地、主管・共催団体との連絡調整を密に行い、企画、立案、運営、予算管理を着実に実施し、準備から大会終了までを統括する。全国で統一された運営を一層推進して、選手が自己の持てる力を最大限発揮できる質の高い競技大会を実現する。日本選手権水泳競技大会競泳競技の開催時期について2024年度か

ら変更して年度末の３月に開催することにしたが、2026年度から再度変更する方向で検討する。また、昨年度（公財）日本中学校体育連盟が、2027年度からの全国中学校水泳競技大会中止の判断を発表した。連盟として全国中学校水泳競技大会の存続や新たな中学生のチャンピオンシップ大会の設置などについて検討していく。

（1）【競泳競技】

①	日本大学・中央大学対抗戦	6月28日	TAC	東　京
②	早稲田大学・慶應義塾大学対抗戦	6月29日	TAC	東　京
③	全国国公立大学選手権大会	8月7・8日	くろしおアリーナ	高　知
④	日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	ひろしんビックウェーブ	高　知
⑤	全国中学校水泳競技大会	8月17日～19日	鴨池公園水泳プール	鹿児島
⑥	全国JOCｼﾞｭﾆｱｵﾘﾝﾋﾟｯｸｶｯﾌﾟ夏季大会	8月22日～26日	TAC	東　京
⑦	日本学生選手権水泳競技大会	9月4日～7日	TAC	東　京
⑧	国民スポーツ大会	9月13日～15日	インフロニア草津AC	滋　賀
⑨	日本選手権水泳競技大会（25m）	10月18・19日	TAC	東　京
⑩	日本社会人選手権水泳競技大会	11月1・2日	三重交通Ｇスポーツの杜鈴鹿	三　重
⑪	ジャパンオープン2025（50m）	11月28日～30日	TAC	東　京
⑫	日本選手権水泳競技大会	3月19日～22日	TAC	東　京
⑬	全国JOCｼﾞｭﾆｱｵﾘﾝﾋﾟｯｸｶｯﾌﾟ春季大会	3月27日～30日	TAC	東　京

（2）【飛込競技】

①	日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	福山通運ローズアリーナ	広　島
②	全国中学校水泳競技大会	8月17日～19日	鴨池公園水泳プール	鹿児島
③	全国JOCｼﾞｭﾆｱｵﾘﾝﾋﾟｯｸｶｯﾌﾟ夏季大会	8月22日～25日	大阪プール	大　阪
④	日本選手権水泳競技大会	8月29日～31日	日環アリーナ栃木	栃　木
⑤	日本学生選手権水泳競技大会	9月6・7日	大阪プール	大　阪
⑥	国民スポーツ大会	9月13日～15日	インフロニア草津AC	滋　賀
⑦	翼ジャパンダイビングカップ	3月19日～22日	TAC	東　京
⑧	全国JOCｼﾞｭﾆｱｵﾘﾝﾋﾟｯｸｶｯﾌﾟ春季大会	3月28・29日	日環アリーナ栃木	栃　木

（3）【水球競技】

①	日本選手権水泳競技大会最終予選会	5月24日～26日	横浜国際プール	神奈川
②	日本選手権水泳競技大会	6月 5日～ 8日	横浜国際プール	神奈川
③	日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	山口きらら博記念公園水泳プール	山　口
④	全国JOCｼﾞｭﾆｱｵﾘﾝﾋﾟｯｸｶｯﾌﾟ夏季大会	8月22日～26日	京都アクアリーナ	京　都
⑤	日本学生選手権水泳競技大会	8月28日～31日	横浜国際プール	神奈川
⑥	国民スポーツ大会	9月 8日～11日	インフロニア草津AC	滋　賀
⑦	全日本ユース（U16）選手権大会	12月24日～27日	倉敷・児島	岡　山
⑧	全日本ジュニア（U17）選手権大会	3月19日～22日	県立柏崎アクアパーク	新　潟
⑨	全国JOCｼﾞｭﾆｱｵﾘﾝﾋﾟｯｸｶｯﾌﾟ春季大会	3月26日～30日	千葉県国際総合水泳場	千　葉

（4）【アーティスティックスイミング競技】

①	日本選手権水泳競技大会	5月 3日～5日	TAC	東　京
②	日本ｱｰﾃｨｽﾃｨｯｸｽｲﾐﾝｸﾞﾁｬﾚﾝｼﾞｶｯﾌﾟ2025	8月 8日～10日	ｾﾝﾄﾗﾙｽﾎﾟｰﾂ宮城G21ﾌﾟｰﾙ	宮　城
③	全国JOCｼﾞｭﾆｱｵﾘﾝﾋﾟｯｸｶｯﾌﾟ夏季大会	8月21日～24日	インフロニア草津AC	滋　賀
④	日本学生選手権水泳競技大会(ﾏｰﾒｲﾄﾞｶｯﾌﾟ)	8月31日	横浜国際プール	神奈川
⑤	国民スポーツ大会	9月 6日	インフロニア草津AC	滋　賀
⑥	ユースソロ・デュエット大会	1月17日	TAC	東　京
⑦	ｱｰﾃｨｽﾃｨｯｸｽｲﾐﾝｸﾞﾅｼｮﾅﾙﾄﾗｲｱﾙ2026	1月18日	TAC	東　京

（5）【オープンウォータースイミング競技】

① オーシャンズカップ2025	6月15日	館山市北条海岸	千　葉
② 国民スポーツ大会	9月10日	長浜	滋　賀
③ 日本選手権水泳競技大会	9月27日～28日	館山市北条海岸	千　葉
④ 日本学生選手権水泳競技大会	10月11･12日	館山市北条海岸	千　葉

２．国際競技会の開催事業

2026年９月に開催される第20回アジア大会の水泳競技各種目の準備を進める。また引き続きJAPAN OPEN へのさらなる海外選手受け入れを進めていく。また、今後は世界大会等の誘致にも積極的に取り組んでいきたい。

① 世界選手権大会	7月11日～8月3日	カラン	シンガポール
② ワールドユニバーシティゲームズ	7月16日～27日	ライン・ルール、ベルリン	ドイツ
③ 世界ジュニア選手権水泳競技大会	8月19日～24日	未定	

３．競技委員会事業

（１）競技会事業

本連盟主催大会では、開催地の加盟団体や本連盟学生委員会、JSPO、（公財）全国高等学校体育連盟、（公財）日本中学校体育連盟などのスポーツ団体と連絡調整を密に行い、準備から大会終了までを統括し、全国で統一した大会運営を目指す。国民の期待に応えられるよう、高いレベルの大会となるように全力を尽くす。

（２）学生競技会事業

第101回日本学生選手権（インカレ）は、競泳を TAC、飛込を大阪プール、水球および AS を横浜国際プール、OWS を館山・北条海岸にて開催する。競泳においては、４日間開催として３回目となることから大会後に実施種目および競技日程の再考を行う。

第72回全国国公立大学選手権は、13年ぶりに高知・くろしおアリーナにて開催する。本年度から予選競技への学校ごとの参加人数制限を撤廃し、標準記録を突破したすべての選手が参加できるようにする。

また、加盟６支部においては、全国大会の予選会をはじめ支部主催の競技会を通じて、学生水泳の強化と普及に寄与し、健全な競技環境を整えるため「学生向けアンチ・ドーピング講習会」・「スポーツ・インテグリティの啓発」を継続する。

なお、学生委員会（会議）を毎月開催し、各支部間の相互連絡と融和を図りつつ、厳正なる学生水泳競技精神の養成・向上を目指す。学生競技役員を育成し、日本選手権など本連盟主催の競技会事業に対する学生の派遣を行う。諸般の事情により休止している全国学生選抜合宿の再開を目指す。

４．国際関係事業

（１）国際関係の情報収集および共有

① AQUA 幹部および Asia Aquatics 幹部との情報交換
　JAQUA 幹部と AQUA 幹部との情報意見交換会議の開催

② AQUA 審判資格 Pathway 習得プログラムの立ち上げ
　国際審判就任に向けた AQUA 資格の擦り合わせおよびテスト受講

（2）国際競技会の招致

① AQUA および Asia Aquatics が主催する国際競技会の開催

第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）の準備および開催、各種目の国際大会の招致による選手活性化

（3）外国役員の待遇

国際会議や主要国際競技大会等の諸行事における AQUA および Asia Aquatics 幹部の接遇、通訳を行う。

Ⅳ　競技運営推進事業（競技条件整備事業）

水泳競技を成立させるための基礎条件を整備するとともに、各種基盤・インフラを整備し、その水準を維持することにより、さらなる水泳競技の普及発展を図る。

１．競技者登録事業

競技者登録管理システム（WebSWMSYS）における競技者の重複登録の解消、機能の改善を推進し、システムの安定稼働を図る。

２．競技規則制定事業

「競泳競技規則」「競技役員の手引き」ならびに各種別の国内競技規則について的確な情報発信を行い、全国統一の理解・共通認識の下で、選手が安心して競技に取り組める環境整備を推進する。

３．競技役員養成・登録事業

「水泳ニッポン・新時代構想」に準拠し、全国の競技会をより充実させることを目的に、選手の力を最大限に引き出す AQUA CREW である競技役員・審判員を養成する。国際基準の眼を培い、「世界トップレベルの水準で、全国で統一された競技会運営」の一層の定着を目指す。

競技役員資格取得者18,000人を目標に、本連盟の方針や改定された競技規則が全国各地で浸透するように取り組む。そのために競技役員研修会を充実させ、リモート形式も含めてブロック研修会、各加盟団体主催研修会とも着実に実施する。全国大会開催予定の加盟団体が実施するリハーサル大会などに本連盟の競技委員を派遣して、競技会指導を行う。

また、日本選手権水泳競技大会などの本連盟主催の競技会に各加盟団体から競技委員長や中核となる審判員に競技役員として参加いただき、最新の競技運営の習得を目的とした実技研修を実施する。全国競技委員長会議を、リモート会議形式で４月に実施する。

４．競技記録公認・管理事業

競技者の競技結果を公認し、管理する事業を行う。記録管理報告サイトで、記録の報告・管理・保全の効率化・省力化が図られ、各地で開催される公認公式競技会の３日以内の記録結果報告も、加盟団体の協力により定着してきた。引き続き、記録管理報告サイトの安定稼働を目指し、記録の３日以内報告を定着させる。また、「超速」のバージョンアップを行い、競技会での活用を促進する。

５．施設用具公認推薦事業

「プール公認規則」にのっとり、新規公認および再公認のプール公認事業を行う。

また、「水泳及び水泳競技に使用される用器具類やシステム等の公認・推薦規程」にのっとり、水泳競技に関わる用器具類などの公認・推薦事業を行う。

Ⅴ　普及事業

普及事業は、強化事業とともに本連盟の二本柱を形成する重要な位置づけにある。2025年度も、指導者養成事業、生涯スポーツ・環境事業、OWS 普及事業、日本泳法保存事業、機関誌発行事業、ホームページや SNS などを活用した広報事業に取り組む。「水泳の日」については、水泳愛好者や水泳ファンを含む AQUA CREW の拡大を目指すとともに、水難事故防止の観点から全国展開を継続、推進する。

１．指導者養成事業

水泳競技の普及振興と競技力向上に当たる各種スポーツ指導者の資質と指導力の向上を図るため、JSPO と連携協力し指導者養成事業を実施する。また、JSPO が実施している指導者資格再登録および公認スポーツ指導者管理システム「指導者マイページ」の活用のほか、オンライン・リモートも活用した受講システムの推進を行い、指導者資格取得者の拡大に向け、受講者の利便性や効果的な情報配信方法についての向上を図る。

（１）地域指導者養成事業

① 指導者養成事業

（a）JSPO 公認水泳コーチ１・２（以下コーチ１・２）の新規養成

（b）加盟団体を通じた本連盟公認基礎水泳指導員（以下基礎水泳指導員）の新規養成

（c）競技実績を有するアスリート・指導者の基礎水泳指導員資格免除認定審議

（d）免除適応校（大学）の養成事業に対する助言・指導

（e）免除適応校（専門学校）の養成事業に対する助言・専門科目の検定

② 指導者研修事業

（a）コーチ１・２ならびに基礎水泳指導員の更新研修に対する督励・助言・指導

（b）指導者に対するコンプライアンス・インテグリティ教育の展開

（c）学校水泳指導者に対する研修事業

③ 指導者登録事業

（a）コーチ１・２の新規・更新登録

（b）基礎水泳指導員の新規・更新登録・管理のシステム化

④ 加盟団体との連携

（a）全国地域指導者（普及）委員長会議を通じた指導者養成事業の共通理解と厳格・公正・均質化

（b）地区別委員長会議などへの派遣を通じた、地域における指導者養成事業の課題の把握と督励

⑤ 水泳の普及に関する事業

（a）指導者養成事業の広報

（b）水泳の安全に関する研究と普及

（２）競技力向上コーチ養成事業

① 水泳競技コーチ資格審査の実施
② 水泳競技コーチ資格の新規登録・再登録・登録更新
③ 水泳競技コーチ更新研修会の実施（研修方法の変更と内容の改善）
④ 水泳競技コーチ新規養成講習会の実施（講習方法の変更）
⑤ 水泳競技コーチ資格の普及促進
⑥ 水泳コーチ教本の改訂準備（2025年度マイナー改訂予定）
⑦ 水泳競技コーチへの伝達および問合せ対応の効率化

（３）水泳教師養成事業

① 水泳教師新規養成事業の推進　（(一社）日本スイミングクラブ協会と合同推進）
（a）適応コース講習検定会の実施　（本連盟担当）
（b）適応コース認定校の新規開拓　（本連盟担当）
② 新規養成コース講習検定会の実施　（(一社）日本スイミングクラブ協会担当）
③ 有資格者の更新研修が可能なスキルアップセミナー開催（首都圏、ほか）（本連盟担当）
④ 水泳教師資格の新規・更新登録事業　（(一社）日本スイミングクラブ協会と合同推進）
⑤ 水泳教師資格更新研修会事業　（(一社）日本スイミングクラブ協会と合同推進）
⑥ 水泳教師在籍施設証明事業の推進（(一社）日本スイミングクラブ協会と合同推進）

２．生涯スポーツ・環境事業

マスターズ水泳事業は、（一社）日本マスターズ水泳協会および JSPO と連携し、日本スポーツマスターズ大会のさらなる発展を目指し、開催地の大会企画・運営を支援する。

泳力検定事業は、運用開始した「泳力検定システム」を活用し、水泳愛好者の拡大を図るとともに、水泳選手への登竜門と位置づけ、水泳技能に関わるスポーツ検定として推進する。

「水泳の日」事業は、宮崎県宮崎市に新設されたパーソルアクアパーク宮崎にて開催する。実行委員会を中心として、（一社）日本スイミングクラブ協会、（一社）日本マスターズ水泳協会、（一社）日本パラ水泳連盟、（一財）宮崎県水泳連盟および各委員会、関連団体と連携を密に図り、企画・立案・運営に全力を尽くす。

（１）日本スポーツマスターズ事業

①「日本スポーツマスターズ2025水泳競技愛媛大会」の開催
（9月6日～7日：愛媛県松山市　アクアパレットまつやま）
②（一社）日本マスターズ水泳協会および JSPO と連携した大会のさらなる発展
③ 幅広い年齢層の選手が、生涯アスリートとしてマスターズ水泳へ取り組むきっかけとするとともに、元気や生きがいを感じながら、生涯スポーツとしての水泳を継続し、ひいては健康増進を図ることを支援する目的で拡充を図る。

（２）「水泳の日」開催事業

①「水泳の日2025・宮崎（仮称）」の開催（10月26日：パーソルアクアパーク宮崎）
② 加盟団体が継続して主催開催する「水泳の日」への支援および連携
③ イベントに関わる会議の企画・立案・運営のパッケージ化
④ 各委員会および関連団体との連携・連絡調整
⑤ （一社）日本記念日協会より記念日として認定された「水泳の日」の周知

（３）泳力検定事業

① 泳力検定受検者および合格者の増加促進
② ニチレイチャレンジ特別泳力検定会（15会場以上）などの企画・立案・運営
③ 泳力検定優秀団体の表彰
④ 泳力検定未実施団体（スイミングスクールなど）へのアプローチ強化
⑤ 「泳力検定システム」の運用促進および普及啓発

（４）優秀団体表彰

① 水泳普及・振興活動を永続的かつ組織的に実施し、実績を挙げた団体の表彰

（５）「安全な水泳教育」の普及

① アスリート委員会と連携した、「命を守るスポーツ」としての水泳教育、環境教育の整備

（６）スポーツ環境保全活動の啓発、推進、情報発信

① ESG（環境・社会・ガバナンス）に配慮した事業運営の推進
② 地域・社会の環境活動に取り組むとともに、各団体との環境活動の連携、支援・協力
③ 環境活動の情報の発信
④ 環境活動「Wear to Fashion」
スポーツによる社会貢献活動の一環として、衣類の循環で「捨てない選択肢」を提供し、未来へつなげるプロジェクト「Wear to Fashion」を実施し、水着やチームウェア等を回収してリサイクル・リユースに繋げる取り組みを複数の主要大会にて実施

３．オープンウォータースイミング普及事業

（１）OWS スイムクリニック、OWS 検定事業の開催
（２）OWS 公認審判員養成（審判講習会の開催）
（３）公認 OWS コーチの養成（更新講習会の開催）
（４）認定 OWS 大会運営仕様の標準化と普及
（５）認定 OWS 大会サーキットシリーズ年間優秀選手表彰

４．日本泳法保存事業

四方を海に囲まれ川や湖も多いわが国では、古くから水と生き、一方で水の脅威にもさらされてきた。そのような環境が日本独自の泳法を生み出し、それらは游泳術、水術などと呼ばれ、命を守る実用の泳ぎ「日本泳法」として今日でも全国各地で継承されている。現存する13流派の游泳術や水術の保存と普及を図るため、日本泳法大会ならびに日本泳法研究会を柱として下記の事業を実施する。

特に日本泳法大会は第70回の記念大会となることから、記念式典を開催、また、大会中は模範演技や公開演技などを計画し、普段の大会で見られないような各流派の泳法の技を後世に伝えるべく取り組む。

流派を問わない公平・公正な演技評価が、選手のモチベーションアップと演技審査の質的向上につながることから、１回以上の審判研修会を実施する。

資格審査は、上位資格取得を目指し研鑽を継続することが、指導者層の育成と、自己研鑽として日本泳法継続を後押しすることからこれを推進する。入門者が最初に受ける游士資格審査は、８月の日本泳法大会が関東（千葉）で開催されることから、これを補う意味で、関西において１回開催する。

有資格者の上位資格チャレンジを支援し、正しい泳法の保存を目的とする日本泳法研鑽会を継続実施

する。
日本独自の水泳文化である日本泳法を広く発信すべく、競技委員会の協力を得て、競泳の競技会などで日本泳法プロモーションビデオを活用し、また、様々な機会を通じた広報活動を推進する。
国民皆泳の精神を受け継ぐ「水泳の日」事業には、各流派団体の協力を得て積極的に参加する。

（1）	第70回日本泳法大会	8月23・24日	千葉県国際総合水泳場
（2）	審判研修会（予定）	8月24日	千葉県国際総合水泳場
（3）	第73回日本泳法研究会 課題「神伝流」	3月21・22日	児島マリンプール・せとうち児島ホテル
（4）	游士資格審査会(岡山会場)	3月22日	児島マリンプール
（5）	第22回日本泳法研鑽会(岡山会場)	3月22日	児島マリンプール

5．機関誌発行事業

公益財団法人日本水泳連盟つぎの100年に向けてのアクションプランに基づきつつ、今まで通りに日本水泳連盟の事業をつぶさに掲載していく。2025年度は、世界選手権大会（シンガポール）があり、そちらに向けた強化プランを広く周知するとともに、その強化プランに対しての結果の振り返り統括を含め、次世代への課題を明確にできるような情報誌としての役割を担っていく。また、夏の全国大会においてもコロナ禍を経て大会も大きく変化しつつあるため、競技会運営に目を向けた統括を掲載し、歴史書としての意味合いを強めていく。

6．広報事業

（1）公式ホームページ（HP）

① HP 管理体制を一新し、各競技の最新情報や大会リポートを迅速に掲載する。
② HP に大会のリポートのみならず、連盟の事業を細かく掲載し活動を広めていく。
③ SNS（Facebook、Instagram、X（旧 Twitter））での情報発信を継続し、大会のみならず、選手紹介、本連盟の事業など広く活動を広報する。
④ HP 更新内容がスムーズに通知されるシステムの構築を進める。
⑤ 過去に発行した機関誌（月刊水泳）の PDF 版を順次公開する。
⑥ 機関誌「月刊水泳」の記事を web に最適化し、掲載を進めていく

（2）報道対応

各競技（各専門委員会）の大会時における報道対応の人員確保とプレスに対する正確な方法発信を心がける。また、報道対応マニュアルの作成を進める。

（3）記念誌発行事業

2024年度の事業すべてまでをカバーして掲載する10年ごとに発行している「周年記念誌（100周年記念誌）」の発行を行う。
また、あわせて記念式典等を盛り込んだ歴史書としての役割を果たす「日本水泳連盟100年史」の骨組みとなる写真集の制作と同時にコンテンツの精査を進め、制作を進めていく。

7．アスリート委員会事業

（1）現役アスリートの意見集約

① 本連盟への提案、提言

（2）現役アスリートへのサポートの検討
① 女子選手の生理に関する啓発
② アスリートのキャリアトランジションに関する啓発
③ 必要に応じたサポートの調査

（3）ジュニアアスリートへの動機づけ
① ジュニアアスリートおよび保護者に向けた各種情報の発信および交流
② 各地のジュニア合宿、講演会などへのオリンピアンの派遣

（4）水泳の普及への貢献
① 水泳の日など、本連盟の普及事業への貢献
② 公式 SNS を活用した水泳普及に資する情報発信
③ 新規登録者および水泳ファン獲得に向けた普及イベントの実施

（5）オリンピアン OBOG 会のネットワーク強化
① 本連盟事業への協力呼びかけ
② オリンピアン OBOG 総会・懇親会の開催

8．国際貢献事業
（1）要請に応じた水泳指導者の海外派遣制度の検討
（2）指導力と語学力を兼備した水泳指導者の海外派遣制度の検討

Ⅵ　組織運営のための共通事業

先達が築いた水泳ニッポンの歴史・伝統・礎のもと、組織力の一層の強化を図り、競技団体としての価値向上に資する高潔・公正な組織運営を徹底する。

1．総務関係事業
「スポーツ団体ガバナンスコード＜中央競技団体向け＞」に基づくコンプライアンス施策を継続して検討、実施する。本連盟各種会議および地域会議の準備・開催を通じて、内外の関係者・関係団体との情報共有および意思疎通を図り、円滑な業務を遂行する。

2．マーケティング事業
2028年ロサンゼルスオリンピックに向けて、オフィシャルスポンサー、パートナー、サプライヤーなどの各企業とのさらなる連携を図るとともに、新規協賛企業の獲得に努める。SDGs、ウェルビーイング活動など時代の流れに対応するとともに、各種施策を講じて水泳ファン・水泳愛好者へのリーチを図り、AQUA CREW を拡大し、スケールメリットを生かしたマーケティング戦略を構築する。

３．特別委員会事業

（１）	財務委員会 広告募集および免税募金事業の推進	財務委員長	堀　正美
（２）	危機管理委員会 緊急時対応および危機管理意識の啓発と指導	危機管理委員長	鈴木　大地
（３）	選手選考委員会 国際競技会派遣日本代表選手団の選考	選手選考委員長	鈴木　大地
（４）	指導者養成委員会 指導者養成制度の推進と資格認定審査	指導者養成委員長	山根　一寿
（５）	倫理委員会 倫理、社会規範意識の啓発と指導	倫理委員長	金子　日出澄
（６）	次世代構想委員会 次世代構想の策定	次世代構想委員長	金子　日出澄
（７）	資格審査委員会 指導者および審判員資格の認定審査 国際審判員の推薦についての審議と決定	資格審査委員長	山根　一寿

Ⅶ　組織運営および財政基盤の確立

「水泳ニッポン・新時代構想」に基づいて、事業内容の精査・充実を推進する。各事業の遂行は、各加盟団体の協力を得て実施することはもとより、スポーツ庁、JSPO、JOC などの関連団体とも連携を図り実施する。組織運営に際しては、ガバナンスの強化、コンプライアンスの徹底により、組織力の強化を図る。財政面においては、全体の収支バランスを考慮し、有効適切な事業の執行、予算管理の徹底を図る。